

学年	第2学年
単元名	平行と合同(第2節)

- 指導に生かす評価…目標の達成のために、個の学習状況(C評価)を把握し、必要な指導や援助を行うための評価
- 記録に残す評価…目標の達成状況が適切に見取れる場面で、全員分の記録を残し、評定に用いる評価

1 単元の目標

- (1) 平面図形と数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができる。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①平行線や角の性質を理解している。 ②多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。	①基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することができる。	①平面図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。

3 指導と評価の計画(第2節 全7時間)

○・・・指導に生かす評価

●・・・記録に残す評価

時	ねらい	知	思	態
1	「対頂角は等しい」ことが「一直線のつくる角が 180° である」ことを基にして、文字を使って説明できることを知る。また、節の見通しをもつことができる。	①		
2	「平行線の錯角は等しい」ことを「対頂角は等しい」と「平行線の同位角は等しい」ことを基に説明し、「平行線の性質」を理解することができる。	① ②		
3	「錯角が等しいならば2直線が平行である」ことを、「対頂角が等しい」と「同位角が等しいならば2直線が平行である」ことを基に説明し、「2直線が平行線になるための条件」を理解することができる。	①		
4	「三角形の内角と外角の性質」を、「平行線の同位角や錯角が等しい」と「一直線のつくる角が 180° である」ことを基にして、説明することができる。		①	①
5	図形の中に表された角の大きさを求める活動を通して、補助線を活用する際には既習の図形の性質が表れるようにひくことが大切であることに気づき、角の大きさの求め方を説明することができる。		①	
6	星形の図形の中に表れる性質を見いだし、既習の図形の性質を根拠に、星形の先端の角の和が 180° であることを説明することができる。	②	①	
7	既習の図形の性質を根拠に、様々な図形の角の大きさを求めることができる。	①		①

※【今後の学びへのつながり】

次の単元では、特別な三角形や四角形の性質をさらに追究していく。「二等辺三角形の性質」や「平行四辺形の性質」等の図形の性質を演繹的に導くときには、補助線をひき、つくり出した2つの三角形が合同であることを示す必要性がでてくる。その際には本単元で学んだ、「三角形の合同条件」が使えるように、意図的に補助線をひく指導を繰り返し行うことで、演繹的に推論する力をさらに伸ばしていくことができるようにする。

